

のうじくみあいほうじん

農事組合法人 ウエスト・いかち

～法人と地元でつくる里づくり～



キャベツ祭り／例年2月開催



女性部による農産物の加工・販売



大学生のファームステイ

経緯

- 農業従事者の高齢化と担い手不足により、個別経営体による農地の集積・維持が困難であった。
- 平成16年の圃場整備事業契機に中山間直接支払の4協定を統合。
- 平成18年に地域農地の保全を目的とする「農事組合法人ウエスト・いかち」を設立。

取組内容

- 共同活動により農地や農業用施設を維持管理し、大型農業機械の導入により大規模で効率的な営農を展開。
- 農産物の加工・販売により高齢者や女性の就労環境の改善と県内女性起業ネットワークへの参加。
- 大学生のファームステイ受け入れ、イベントの開催による都市農村交流に取り組む。

活動の効果

- 大型農業機械による大規模・効率的な営農に加え、エコファーマーの認定を受けている。
- 女性を中心とした四つ葉グループは、「やまぐち農山漁村女性起業ネットワーク」の統一ブランド認定を受け、地元農産物を使った加工品やヘルシー弁当の宅配が好評を得ている。
- 農産物や加工品の販売を通じ、都市農村交流と地域活性化が図られている。
- 大学生のファームステイの受け入れと、学園祭へ加工品の提供、キャベツ祭りの開催など行うことにより、都市農村交流と伊陸地域のPRに繋がっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

大学生のファームステイ受入をきっかけとした都市部との交流は、地域の活性化に繋がり、伊陸の美味しい農産物のPRにも繋がりました。また、毎年2月に開催している「キャベツ祭り」では、旬のキャベツを始めとした伊陸の冬野菜、手作りの大豆コロッケ、寿司、炊き込みご飯の販売しており、地区内外の来訪者で大盛況となっています。皆様も是非お越しください！

かぶしきかいしゃ かの高原開発
株式会社 かの高原開発

～中山間地域の活性化と特産品の創作～



そば畑と看板



加工した和紅茶

経緯

- 平成8年、鹿野地区の観光の興隆・地域の活性化のため周南市の第三セクターとして設立。
- せせらぎ・豊鹿里パーク「鹿野オートキャンプ場」、石船温泉憩の家²施設において地域の方々又は都市と農村の交流促進、農業部門は特産物の生産を行っている。

取組内容

- 伝統の継承：鹿野のお茶は、室町時代からの歴史があり、現在も庭先に自生。手摘みされた茶葉を「鹿野和紅茶」に加工。
- 農福連携：周南市、(福)鹿野福祉会・ふれあい作業所鹿音と連携し、鹿野和紅茶のティーパックを制作。
- 耕作放棄地対策：高齢化により荒廃が続く農地を保全するため、そばを生産し商品開発。

活動の効果

- 鹿野和紅茶により、お茶文化の復興や、鹿野地域の経済の循環と共に鹿野茶を見直すきっかけになった。
- 農福連携による鹿野和紅茶のティーパック制作で雇用の拡大に貢献。
- そばの作付けは80haに拡大し、耕作放棄地の解消につながる。専用コンバインを導入し、コスト低減と品質向上を図る。令和元年、『のんたそば』として商標登録し、加工品は令和2年、周南市のブランド認定を受ける。

応募団体からのアピール・メッセージ

官民一体となり、地域の方々を巻き込み、中山間地域の産業の発展と雇用の拡大へ繋げるため、農業部門は「のんたそば」「和紅茶・(なごみ)」の販路拡大により山口県の特産品として着させたい。

株式会社つなぐファーム 農事組合法人 杵崎の里

～地域・時代・人・想い・様々な『縁』をつなぐ～



地域の農家とのつながり



広大な土地を活用し自然に近い環境での放牧

経緯

- 食に携わる者として、地域で生産された食材は地域内で消費することを目的に、生産から加工まで取り組むことで、より安心安全な食材の提供につながる。
- 1次産業の活性化を地域の活力、魅力の創出につなげることが次世代に向けた私たちの役割と考え、(農)杵崎の里と協力・提携し(株)つなぐファームを設立。

取組内容

- 山口型放牧の手法を取り入れた肉用牛の肥育と、『山口放牧牛』を使用した焼肉レストランの経営・商品開発。

活動の効果

- (株)つなぐファームの『山口型放牧』を活用した放牧肥育を実践するにあたり、水田放牧を取り入れた肉用子牛の生産について、(農)杵崎の里と提携・協力し放牧肥育の飼育管理を確立。
- (農)杵崎の里は、放牧等を活用し耕作放棄地の再生利用と循環型農業に取り組み、(株)つなぐファームは食肉販売部門を担い、焼き肉レストランを展開し6次産業を実現。

応募団体からのアピール・メッセージ

今後もつなぐファームと杵崎の里が関わる全ての「縁」、「つながり」を大切にして、地域の活力の活性化、魅力の発信をつづける。

のうじくみあいほうじん さと やしろみなみとちかいりょうく
農事組合法人ファームつるの里と八代南土地改良区

～ナベツルと共生した環境と人に優しい農業を～



ボランティアと共に行うツルのねぐらづくり



冬期湛水をしたほ場

経緯

- 周南市八代は、本州唯一のナベツルの渡来地(越冬地)であるが、餌場となるほ場が荒廃し、ナベツルが減少。
- 「ツルと人・共生の里」再生構想の一環として、地域の農業を支え、ツルに優しい農業を推進するため、八代南土地改良区を中心に合意形成を図るとともに(農)ファームつるの里を設立し、地域農業を担う。

取組内容

- ツルに優しい農業生産基盤・環境の整備:生態系保全型水路やツルの歩きやすい法面傾斜の導入など。
- 環境に配慮した農業の実施:冬期湛水、無農薬・無化学肥料、堆肥を活用した循環型農業などツルに配慮した営農。
- 若者定住と新たな商品づくり:地区外若者の雇用を積極的に行い、八代地区に定住する農業後継者を育成。

活動の効果

- 冬期湛水栽培、無農薬・無化学肥料、ICT活用による酒米生産支援システムなどの取り組みにより、「ツルと人に優しい安心・安全な農産物の生産」が認められ、八代産の酒米を使用した日本酒も高い評価を受けている。
- 小学校と連携し、生態系保全型水路で実施される「生きもの調査」では、きれいな水と判定されており、ツルと共に歩む農業によって豊かな自然環境が守られている。

応募団体からのアピール・メッセージ

周南市の定住促進事業を活用し、地区内外から定住する農業後継者の発掘・育成を推進し、「ツルと人に優しい安心・安全な農産物の生産」を基本に、規模拡大、品質向上、コスト削減を図り、6次産業化、女性の雇用などを視野に入れ活動していく。

有限会社福田フルーツパーク

～明るく 楽しく 美しい農業を目指して～



梨とぶどうの観光農園



ツリークライミング体験や外国人の農業体験



経緯

- 山口県周南市の北部に位置する須金地区は、ぶどう・梨の産地であり、40年以上続く観光農園が団地化(16戸)し、秋には県内外からの観光客で賑わいを見せている。
- 2010年、現代表に経営移譲したことを契機に、消費者ニーズや時代の変化に柔軟に対応できるよう様々な取組を開始。

取組内容

- 2006年から夏休みの自然体験宿泊イベント「いなかの学校」を実施。2日～3日の期間で小学生約30人を受入。
- 2009年から農業体験と交流のNGO団体「WWOOF」を通じ、世界中から外国人の農業体験を受け入れている。
- 2011年から自然とふれあうことを目的に、森のアーチェリー、ツリークライミングを開始。
- 2015年からバーベキューの飲食営業を開始し、最大1日150人を受入。

活動の効果

- エンターテインメントな観光農園を目指し、地域資源の発掘及び情報発信を率先して行ってきた結果、自然体験やバーベキューを目的とした来訪者が年々増加し、都市農村交流と須金地区の活性化につながっている。
- 地域全体の魅力を向上したことから、新規就農者も増加し、観光農園の園主の平均年齢が40歳代となり、観光農園の経営承継も順調に進んでいる。

応募団体からのアピール・メッセージ

エンターテインメントな観光農園をめざし、夜間のライトアップ、宿泊設備の拡大など、ナイトタイムツーリズムの充実を図るほか、隣接する観光農園との連携強化とイチゴ栽培など新たな産地の形成に取り組んでいきます。

かどい まさゆき

角井 雅之

～売上1000万！暮らせる農業で産地振興～



角井 雅之



みかん園



せとみ

経緯

- 神奈川県から父母の実家に帰省する度、祖父が営むみかん園で農作業を手伝う。
- 農業への憧れが就農希望へと膨らんでいくが、父の教えもあり、会社員として就職。
- 就職後も「みかん農家になりたい」との思いは変わらず、周防大島町やJA山口大島（現JA山口県周防大島統括本部）での研修を経て、平成24年4月に就農。

取組内容

- 柑橘栽培では、露地とハウスを組み合わせ、せとみ、せとかなど10数種類を栽培。
- 就農時は132aの園地でスタートし、その後、約360aへ規模を拡大。
- 凍害のリスク分散のためハウス栽培を開始し、高収益を得られる品種へ更新。
- 積極的に園地を借り入れる一方、担い手確保のため新規就農者へ移譲。

活動の効果

- 農地中間管理機構等の利用により、就農時より2倍超まで耕地面積を拡大し、農業経営を通じて国土保全と安定した農産物の供給などに寄与。
- 規模拡大により、露地とハウスを組み合わせたリスク分散と高収益が見込める品種を始めとした10数種類の柑橘栽培が可能となり、就農時から約10倍に収益が向上。
- 周防大島町農業委員、農業士会青年副会長を務める傍ら、就農希望者に対し、樹園地の提供、技術及び経営ノウハウの伝達により、営農継続に向けた支援を実施。

応募者からのアピール・メッセージ

農家は農産物を作り、市場や加工業者に“適正な価格”で販売し、利益をあげる。普通に営農すれば利益がきちんと出る産業になれば、高度な経営感覚が求められる6次産業化を推進するより就農人口を増やせると考えている。

新鮮田布施

～未利用魚加工で魚価低迷に倍返し!!～



加工処理前の未利用魚図



昼市直売風景様子(地産地消)

経緯

- 魚価の低迷、経費の高騰によりベテラン漁業者でも経営が難しい状況下、新規漁業就業者をはじめとする独立型漁業者が、経営の安定化を図るうえで、新たな取り組みが必須であった。
- 「自立」「新鮮・安心・安全」「安価」「実力主義」をモットーに、平成17年、協業体「新鮮田布施」を設立。

取組内容

- 未利用魚の有効活用と、付加価値の向上のため、鮮魚・フィレ・ミンチ・干物・漬け焼き、フライの半製品(揚げる手前までの行程)など商品開発に取り組む。
- 補助事業と構成員からの負担により加工施設を整備。
- 委託販売先や直売など新たな販路の開拓により、構成員の経営安定と地元消費の拡大に寄与。

活動の効果

- 加工施設の維持管理をポリシーの1つ「自立」に則り、構成員の販売利益から維持管理することにより、施設に対する意識が向上し、施設の保全が保たれている。
- 未利用魚の有効活用等により、水揚量向上、地産地消、漁業経営の安定に貢献。
- 夫婦で取組む事により男女共同参画を実現するとともに、新たな指導者の育成と移住・定住も含めた新規漁業就業者の増加に繋がっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

周辺地域のグループとも連携し、新たな取組を検討しています。これからも新規漁業者の確保並びにグループへの新規加入を継続し、地域を活性化していきます。

奨励賞

のうじくみあいほうじん きよ

農事組合法人 木与なぎさファーム

～江戸からの継承、伊能忠敬の恵みを今に！～



地域の有志で行う農地・道路・水路清掃活動



棚田から見る日本海の風景

経緯

- 江戸時代、「伊能忠敬」による全国測量の際に、取水口・水路・排水口等の測量と設計が行われ、これにより、豊かな棚田となった。
- 平成22年「木与集落の明日の農業を考える会」立ち上げ、その後、集落の農地を守ることを第一に考え、平成23年「農事組合法人木与なぎさファーム」を設立。

取組内容

- 集落一体となった農業生産活動により、集落の農地保全。
- 棚田法面の保全管理、集落内水路への鯉の放流、花壇の整備等、集落の景観形成。
- 棚田で田植え体験を実施し、地域交流と地域のPRを通じ、地域の活性化に努めている。

活動の効果

- 機械の共同化、無人ヘリによる共同防除体制の確立、農地外周への獣害防止柵の設置等、集落一体となった活動が実施でき、地域の農地保全が可能となった。
- 農業者、非農業者、女性、若者等を含めたコミュニケーションの場の創設。
- 木与集落の棚田で開催した「田植え体験」では町外の方の参加もあり、新たな交流が生まれるとともに、地域の活性化が図れた。

応募団体からのアピール・メッセージ

棚田から見る夕日と美しい農村集落の景観は、木与の宝です。
「やまぐち棚田20選」にも選定されている木与の棚田を後世に引き継ぐため法人を中心に農地保全に取り組んでいます。